

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【KSL-1 リーグカップ】

▼予選リーグ

vs ブレッサ相模原	1-3●
vs フットワーククラブ	1-1△

3 チーム中第 3 位で 3 位トーナメントへ

Youth

【県 CY リーグ】

vs 横須賀シーガルズ	2-0○
-------------	------

Junior Youth

【2010/2011 県 U-15 リーグ 1st ステージ】

vs 横浜 GSFC	1-1△
vs FC OFFSIDE JY	0-2●

小 6

【横浜国際チビッ子】

▼決勝トーナメント 1 回戦

vs 小雀 SC	4-3○
----------	------

▼決勝トーナメント 2 回戦

vs 六浦毎日 SS	0-2●
------------	------

小 5

【潮風カップ】

▼グループリーグ

vs 初声ジュニア FC	3-2○
vs スカイブルー SSS	0-1●

3 チーム中第 2 位で 3 位決定戦へ

▼3 位決定戦

vs 岬陽 SC	3-1○
----------	------

6 チーム中第 3 位

Papas

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀 4 部】

vs 大和四十雀	0-3●
----------	------

今、グラウンドでは・・・

Top

【KSL-1 リーグカップ】

県リーグ戦は終了し、11 月からは

KSL-1(県リーグ)カップが始まりました。県リーグと同じく1部のチーム同士が戦える貴重な試合です。

第1戦のブレッサ相模原戦では、かながわクラブが先制したものの、次第にブレッサ相模原のペースになり1-3で敗戦、また第2戦フットワーク戦でも先制したものの追加点が奪えず、追いつかれて1-1の引き分けに終わりました。

かながわクラブの攻撃の形は、良いときにはボールが動き、空いているスペースを有効に使い、前を向いてゴールへ向かえる時です。逆に悪いときは、ボールに集まってしまう、簡単にボールをさばけず、パスの出どころがなくなり、相手にボールを奪われるときです。

最近の練習では2チームに分かれて2タッチでのボールキープを良くやっています。2タッチにする意味は、最初のタッチでボールをコントロールし相手をかまし2タッチ目で味方にパスすることなのですが、最初にタッチするまでにボールを出すところを見ておかなければ、最初のボールコントロールができず、出どころを探してしまい、相手に詰め寄られてしまいます。ボールを奪う側にしてみれば、そのボールコントロールがうまくいかない時、ボールの持ち方が悪い選手に対しては積極的にアプローチすれば、ボールを奪うことができます。そこを積極的に行かず待ってしまったり、相手は体の位置を変え、良いボールの持ち方になり、ボールを奪いにくくなるのです。そういう練習を何のためにやっているのかを、考えながら練習しなければ、ただの「練習のための練習」になってしまいます。

県リーグ戦と違って県リーグカップ戦は多少気が緩みがちになります。それはどのチームにも言えることだと思いますが、今までなかなか県リーグで試合出場機会がなかった選手にとっては、自分の実力を試す良い機会でもあり、また自分をレベルアップするためのパラメーターにもなり



ます。田村監督が掲げている「戦える選手」になるための絶好のチャンスなのです。特に若手の選手たちには、練習試合を含めて有効に使ってもらいたいと思います。

さて、Top チームは来シーズンに向けて動き出しております。1月から Top チームは新体制でスタートする予定です。

(中本 洋一)

Youth

前日本サッカー協会技術委員長の小野剛氏の講演に出かけていきました。小野氏は現在 FIFA のテクニカル・スタディ・グループのメンバーであり、南ア W 杯のテクニカルレポートをもとにした、興味深い話を伺うことができました。優勝したスペインのサッカーについての分析が主体でしたが、なかでも興味深かった部分は次のとおりです。

1. ラインの間に入り込んでボールを受けていること

相手の DF と MF のラインの間や MF と FW のラインの間に顔を出してボールを受けていること。そのために、周囲の状況をたえず見ていること。他の選手と連動してスペースを活用していること。

2. タテにボールを動かすこと

DF ラインでボールを回すのではなく、シビアな位置の選手に強い縦パスを入れていること。しかもただ入れるのではなく、周囲の状況から、多くの味方選手が有効となる方の足を狙って出していること。

3. カウンターを恐れず、攻撃に積極的に人数を割き、ボールを奪われたらすぐに奪い返すこと

攻撃をしているときに、相手 FW が少数しか残っていないにもかかわらず、多くの DF を残さないこと。攻撃に多くの人数を割けば、当然ボールを奪われた後にカウンターを食らう可能性が高いが、ボールを奪われた直後から前線からアグレッシブにボールを奪いに行き、容易に攻めさせていないばかりか、高い位置でボールを奪い返し再度攻撃していたこと。そのためのハードワークを全員が行っていたこと。決勝でのスペインは、相手のオランダの倍以上の回数、相手陣内でボールを奪っていた。

4. 不要なファウルを犯さないこと

スペインやドイツなどの成績上位国は、犯したファウルが少なかったこと。しかも、自陣でのファウルはかなり少なかったこと。スペインはフェアプレー賞を受賞しており、勝つためのサッカーとフェアプレーは相反するものではない。しっかりとポジションから正當にチャージして正當にボールを奪っていた。それが攻撃につながり結果につながっていた。

いかがでしょう？ 日々のトレーニングで言われていることばかりではありませんか？ (内田 佳彦)

Junior Youth

【スポーツごみ拾い大会】

11 月 21 日(日)に「スポーツごみ拾い大会」に参加してきました。

この「スポーツごみ拾い」は、制限時間内に拾ったごみの質と量を競う競技で、「ごみ拾いはスポーツだ！」を合言葉に現在全国的に行われているそうです。

今回は、3～5 人一組のグループエントリーで、18 チーム総勢 100 名弱の参加者で行われました。かながわクラブジュニアユースは、スタッフ含め 4 チームがエントリーし、横浜駅東口周辺を 1 時間ほど、ごみ拾いしました。

その結果、拾ったごみの総重量は約 74kg。普段、自分が横浜駅周辺を歩いているときには、これだけのごみが落ちているなんて感覚はまったくくないのですが、実際、1 時間足らずでこの結果でした。驚きです。しかも、さらに驚いたのは、優勝したのが、かながわクラブジュニアユースチームだったことです。この優勝したチームは総重量 74Kg 中 10.45kg のごみを拾ってきました。これは参加 18 チーム中、断トツです。表彰式では、賞状、楯、賞品が贈られ、かながわクラブジュニアユース全体にも特別賞としてマリノス戦のチケットをいただきました。

今回、初の試みとして参加してみました。競技感覚で楽しみながらできるので、奉仕活動として行うよりも、ごみの収集率がアップするような気がしました。ただ、主催者の方も言うていましたが、短時間でこれだけのごみを集めるのはスゴイことでは

あるけれど、逆の見方をすれば、これだけの量のごみが捨てられているんだということです。

今回参加したことで、ジュニアユースの選手たちが、何かを感じて、少しでも環境意識が高まるきっかけになってくれたら良いなと思います。

最後に、今回「スポーツごみ拾い大会」に参加するにあたり、ご尽力いただいた田中君のお母さんには、この場を借りて、選手・スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

(二木 昭)

小 6

【国際チビッ子を終えて】

小学6年生チームは、ベスト 16 という成績で全日程を終了しました。早朝からお弁当を準備してくださったお母様方、そして各会場にて声援を送っていただいた保護者の皆様に対しまして、あらためてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

横浜市の大会には、小学2年生の秋から参加してきたものの、過去4回はいずれも予選リーグを突破することができませんでした。前任の井岡コーチから引き継いだ3年生以降も、試合ではなかなか勝つことができず、0-11 や 0-18 というスコアを記録することがたびたびありました。私は、「試合」は日頃のトレーニングで身につけた技術等が緊張感のある舞台上でどれだけ出せるか、そしてその中で何ができて何がうまくいかないのかを確認する場だと考えています。ですので、結果以上に試合の内容や一人ひとりのプレーを評価してあげることが大切であり、選手たちにはそのような視点から言葉をかけるように努めてきました。

サッカーをはじめた幼児・小学1年生の頃からポジションを固定したり、リスクを負ったプレーを避け、ひたすらボールを前に蹴るようなスタイルを続けていれば、ひよっとしたら連敗が続くようなことはなかったかもしれません。しかし、それではこの競技の本当の楽しさを知ったり、後々の財産となる技術力や判断力、そしてコミュニケーション能力を身につけることは

できなかったかもしれません。

今大会では、4人の選手(FW/DF/左右のアウトサイド)以外の6人についてはポジションを決めることもしませんでした。世間一般の常識では、「ワンバック」という形で勝負のかかる試合に臨むチームはなかなか見当たらないと思いますが、現6年生チームは個人のスキル(※ゲームの中で使える技術)の向上を目指し、あえてこの難しい形を選択しています。もちろん、自分たちのディフェンスラインの背後を狙われれば、ピンチになることは承知の上です。大会がスタートし、試合を重ねるにつれてゴールを守るのではなく前からボールを奪いに行く場面や回数が増え、結果として攻守にわたり躍動感のあるサッカーができるようになっていきました。終わってみれば、初の決勝トーナメント進出、そしてベスト16。最後までクリエイティブなプレーを見せてくれた選手たちには、心からの拍手を送りたいと思います。

次の目標は、年明けの県大会です。この大会は初戦からトーナメント形式となります。1つでも多くの試合を経験できるよう、また全員でトライしていきたいと思えます。引き続きサポートをよろしく願いいたします。(鈴木 章弘)

小 5

【三ツ沢までの道のり】

今回の区リーグは子供たちだけで三ツ沢補助競技場まで来てもらいました。一部の保護者の方から「ちゃんと現地までいけるか心配でしかたなかった。」という声を多々聞きました。私自身は3年生の時から子供たちと行きなれた道だったのでステップを踏んで、自分たちの行ける距離を徐々に伸ばせば大丈夫だろうと思っていましたが、当日心配になり一番のりで現地に着いていました。

高学年になるにつれ、サッカー以外の部分でも子供たちが成長し大人になっていく姿が多くみえ指導者としてとてもうれしく思います。今後もサッカーのプレー以外の部分でも子供たちが大人になるお手伝いができる様に心がけていきたいと思えます。

【潮風カップに参加して】

今月は三浦市で行われた潮風カップにメンバーを選考して参加しました。この大会を通じて参加した選手たちに感じていただいたのは、「試合への入り方」・「戦う気持ちを全面に出す(相手選手より先にボールに触るなど)」の2点です。今回優勝したチームは他のチームに比べ試合前のアップ・ミーティング・試合中・試合後まで集中力・意識・必死さが他のチームより持続していました。こういった意識1つで自分たちのプレー1つ1つに大きな影響を及ぼし結果に反映してきます。今回選ばれた選手・選ばれなかった選手も次回の練習から入り方を意識してみてください。そこに殻を破るヒントが隠されていると私は思います。(丸山 祐人)

小 4

【異文化(!?)交流】

国チビ終了後も、声をかけていただける先に出向き練習試合をさせてもらっています。特に外国人メンバーとの対戦であった YC&AC 戦は個人的にもとても刺激的でした。かながわクラブの子供たちも、言葉や肌・目の色の違う子供たちを相手に結果はどうあれ普段と違う刺激を感じてくれたことと思っています。今後も「サッカーを愛する仲間」たちとの交流を続けたいと思います。

【意識】

改めて技術の向上を目指し基本的なボール扱いを繰り返し行っていきます。



【小4】11/14日YC&ACにて撮影ながらYC&ACの子供たちは写っていません

最近では、これまで説明しても

なかなか理解してもらえなかったことが、みんな意識が変わってきたのか本当に少しずつですが考え理解しようとするようになってきました。例えばボール扱いでの軸足の大切さや、ドリブルの時のボールタッチの強弱など変化が見えてきています。サッカーにおける最も大事な「戦術」である「技術」を身につけようとする個々の意識が、結果としてチームとしての質も高めていくために欠かせないものになると信じて今後も取り組んでいきます。保護者の皆様にも、不器用なりにも自分を変化させようと努力する子供たちを引き続き温かく見守りいただき、サポートをお願いいたします。

(小野 津春)

小 3

【頭を使って…】

先月書いたように最近の活動では、メチャ蹴りしない(相手が前にいたら蹴らない)こと、ドリブルで相手にぶつからない(ドリブルは相手と相手の間を狙う)こと、難しいことはしない(浮き球をきちんとコントロールしてプレーをする)ことの3点をテーマとして、練習しています。どれも大人が考えればとても当たり前のことなのですが、実際にやっている本人たちには、なかなか難しいことなのです。

口で説明してもその難しさは理解してもらえないかもしれませんが、一度、港北小学校の朝の Papas の活動に参加していただければ、子どもたちがやろうとしていることの難しさはご理解いただけるのではないのでしょうか。

大人は頭で考えることはできても、技術が身につけなければ体が動きません。技術が身につけていても、相手のあることから、思うようにはいきません。大人は失敗を重

ねながら、その反省を踏まえ次回への対策を練ることができます。その結果、子どもたちよりも早く課題をクリアすることができるようになるのです。

ただ、誤解のないように行っておきますが、Papas の活動は決して子どもたちの難しさを体感してもらうためにあるものではありません。純粋にサッカーを楽しみたいという大人のためにあります。経験者であれ、未経験者であれ、全く関係ありませんので、是非、興味のある方は一度体験してみてください。

さて、話を元に戻すと、子どもと大人の一番の違いは「考える」ということです。「考える」ことは習慣づけです。子どもの体は反射的に動くことができますが、脳は考える訓練を重ねなければ、瞬時に決断はできるようにはなりません。現段階ではまだまだ考えることが途中で面倒くさくなって、ボールを闇雲に蹴ってしまったり、力づくのドリブルで相手にぶつかっていったりすることになりがちです。毎回の活動の中で数多く頭を使って、考える習慣重ねて、「考える」ことを身につけて欲しいものです。

【試合を意識して…】

幸い12月は試合の予定が多くあります。そこで活動も「試合を意識して…」やってみようという話をしました。自然とゲーム形式の活動が多くなります。ゲームをして上手いかなかった点を修正して、またゲームに臨みます。上手いかなかった点を子どもたちに挙げてもらいます。更にどうすれば上手いかわかを子どもたちに考えさせます。ただ、これも意識のある子とそうでない子との間には著しい差があります。しかし、大人が一方的に押し付ける意見よりも同じ仲間が口にする意見を聞いて、気づかされることもあるはずです。そうしたことがきっかけで「考える」ことに対する意識が芽生えるのです。

具体的には上手いかなかったゴールキック、コーナーキック、そしてスローインに工夫を加えていくようになります。ドリブルをしていて相手に囲まれてボールを奪われた子に、「早くパスを出せばいいのに…」と声をかけるようになります。子どもた

ちは、遅々とした歩みかもしれませんが、少しずつ前に進んでいます。

【試合で試してみよう！】

せっかく身につけた技術ですから、実際の試合の中で、ユニフォームの色の違う相手に対して、どれくらいできるかを試してみましょう。勝ち負けは勿論大切なことですが、練習の中で身につけた技術がどれくらい発揮できるのかを確認することがもっと大切なことだと考えます。普段練習している自分たちの得意技を試合で存分に発揮しましょう。(佐藤 敏明)

小2

【やはり技術が必要】

先日リーガエスパニョーラのクラシコのダイジェストを見ました。今、世界でおそらく頂点を極める2チームの対戦です。バルセロナ対リアルマドリッド。結果は 5-0 でバルセロナが勝利しました。その中でやはり素晴らしいと思った点はバルセロナの選手たちのボールコントロールの緻密さでした。バルセロナの選手はどんなに相手が近くにしようどんなに囲まれていようが、揺るぎない自信と落ち着きで自分の考えた場所、スピード、強さでボールをコントロールしていました。揺るぎない自信も、落ち着きも、実際のコントロールも、日頃から常にそういった場面を想像しながら、今でも練習をしっかりとしているからだと思えます。ドリブルをするにしても、パスを出すにしても、パスを受けるにしても、日頃の遊びから、日頃の練習から常に想像力をはたらかせながら、プレーをすると、またちがったおもしろさも出てくると思えます。常にどうしてみようか？こうしたらうまくいくのではないかと想像するだけでワクワクしてきます。コーチも小学校高学年のころから、このスピードで行けば、このタイミングで足が出てくるのではないかとか、このスピードとコースでパスを出せば相手がカットしてきた上で取れないのではないかと想像しながらプレーをし、見事そうだったときはとても心が躍ったことを憶えています。

ただ、そうした想像力を活かすためにはやはり技術が必要です。そしてそのプ

レーが絶対にできるという自信が必要です。そのために、今はとにかく技術の向上が必要と考えます。

これから、出来るときは練習開始 30 分前に自由参加の技術練習をしたいと思えますので、その時はどしどし参加して下さい。

【冬になります】

これから気温が下がってきます。汗をかいた後の着替えや防寒対策等、体調管理に選手自身が気をつけて下さい。熱が出てても誰かが代わってくれる訳ではありませんので、楽しくサッカーするためにも気をつけて下さい。(益子 伸孝)

幼児・小1

アジア大会男女サッカーの決勝戦をTV 観戦して「ピッチがデコボコだなあ」と感じたのは私だけでなかったでしょう。

サッカーには「緑の絨毯(じゅうたん)のような芝」が当たり前なのですから。

carpet という単語の意味を調べたところ、「1. 絨毯(じゅうたん) 2. [草花などの]一面の広がりとありました。また、on the carpet という成句は、The professor called John on the carpet for skipping his classes. (教授は授業をサボったジョンを叱った)」というように、なぜか、「<召使・下役など>(叱責のため)呼びつけられて、叱られて」という意味があるそうです。英国貴族が、召使・下役を呼びつけて、「絨毯の上で叱った」のでしょうか。

話は変わりますが、かながわクラブは、スポーツ振興くじ(トト)の収益による助成(対象事業:スポーツ活動推進事業)を受けています。これは、「スポーツ団体がスポーツの振興のために行う事業に対して助成することにより、生涯にわたる豊かなスポーツライフのための環境づくりと、国際競技力の向上を図る」ことを目的し、その内容には、スポーツ教室・スポーツ大会等の開催、スポーツ指導者の養成・活用、スポーツ情報の提供、マイクロバスの設置などが含まれています。

先日のスタッフミーティングではマイクロバス購入が話題になりました。かながわクラブのトリコロールのロゴがペイントされた

バスで、試合会場へ！なんてことが近いうちに実現するかもしれません。その他5つの助成事業には、地域スポーツ施設整備助成(クラブハウスの整備、グラウンドの芝生化等)や総合型地域スポーツクラブ活動助成(総合型地域スポーツクラブの創設及び活動、広域スポーツセンター指導者派遣等)などがあります。

幼稚園・学校の校庭芝生化が話題になっていますが、天然芝でプレーするのは本当に気持ちの良いものです。ボールが少し浮いている感触、転んでも痛くなく、砂埃が舞わない、地面からの柔らかな反動。雨でもドロドロに汚れることのない安心感、などなど。

港北小学校の校庭が天然芝になれば！

緑の絨毯のような芝の上でサッカーができる環境が日本中に整えば！

そんな願いを叶えるためには？

そうです。toto の売り上げを伸ばして、助成をたっぷり頂ければよいのです。そのために、何度外そうともせつせと toto を買い続けています。(6億円もちろん狙っていますよ！)(浜野 正男)

先日 2022 年ワールドカップ日本招致活動の一環として開催された『指導者技術講演会』に参加してきました。

メインプログラムは元日本サッカー協会技術委員長である小野剛氏による『横浜から世界に通じる指導法』というテーマの講演でした。その中で少年サッカーのコーチという立場として強く印象に残ったのは「少年サッカーはワールドカップに繋がっている。」という言葉でした。幼児・小1の選手たちの中から将来日本代表としてワールドカップに出場する選手が現れるかもしれない。そんなことを考えながら話を聞き、気持ちを新たにしました。選手たちの可能性を信じ能力を最大限に引き出せるような指導をしていけるよう、さらに努力していきたいと思えます。(豊田 泰弘)

【うまくなりたい！】

最近、幼児小1の練習を見ていると、サッカーに夢中になっている子が多い気がします。コーチが話しているのを、目を輝かせて聞いてくれたり、その日に習ったことを試合のときに使おうとしたり、

練習が終わった後に残って練習している子も増えてきていたり、サッカーをうまくなりたいという気持ちが伝わってくる子が多い気がします。この気持ちはうまくなるための一番の近道だと思います。自分もレギュラーから外され、うまくなりたいと思い、必死に練習をしました。今振り返ると、その時が一番うまくなった気がします。ですから、この気持ちを本当に大切に、毎回の練習1回1回を必死にやってもらいたいと思います。(近江 柔)

Papas

【Rec 2010 年度県シニアリーグ4部を終えて】

11月21日の最終戦をもって、2010年度県シニアリーグ4部の日程がすべて終了しました。

今シーズンの戦績は1勝9敗2分で、13チーム中12位の結果で終わりました。

得点4/失点27

得点者: 岩田、村越、内田、齋藤

12試合参加者: 福田、村越

11試合参加者: 岩田、太田

平均試合参加数 12.75人

今年度、低迷の原因として、

◆得点力不足

今年度はFWの離脱者が多く、FWの人材が足りなかった。特にRec創設からチーム最大の得点力であり、ゲームメーカーである大野木さんの一年間の離脱は大きな得点力不足となり、シュートに繋がるパスも少なかったことが得点力不足と考えられます。夏までの前半戦は失点も少なく、良い試合をしていたが、得点が入らないことで僅差の負けや、モチベーションが上がらず最後まで守りきれないという状態でした。DFラインは安定していますので、中盤でのチェックやFWでのボールキープが多くなれば失点はもっと減らせると思えます。

◆新規加入者の不足

チームの年齢構成を見ますと、来年4月にはメンバー25人中、15人が50歳以上となり、平均年齢50.4歳となります。

年齢があがるにつれて、故障による離脱者が増すというリスクが増加します。

他のチームが新人が加わり戦力が上がっている中で、Recとしても毎年2~3名の新戦力が加わることでチーム力の向上が期待されます。

◆シニアリーグ4部のレベル向上

一年間の試合を通して、シニアリーグ4部チーム全体のレベルが向上してきていると感じられます。

Recとして初めて参戦した2006年当時と比べてみると、各試合でのパスまわし、ボールキープ、シュートの精度などが向上していると感じられます。Recとしても運動量のみでは勝てるものではなく、パスを繋ぐことを考え、動きの質、バランスを意識して戦ってきましたが今後さらに精度を上げていかないと、他チームのレベルも上がっているなかで厳しくなると思います。

◆来シーズンに向けて

今年度のRec単独での試合はすべて終了しました。来シーズンに向けては、故障した部分を直し、コンディションを維持して来年4月より始まるリーグの準備をしてほしいと考えます。

Recのチームコンセプトとしてサッカーを楽しむことが、第一ではありますが、試合で走れる体、動ける体をもって望むことは最低限のルールです。生涯スポーツとしてサッカーを楽しむためには、技術の向上もあきらめる事なく、個人としてチームとして少しでも上のレベルにいけるよう、ピッチ内、ピッチ外(酒場)でも考え、話をし、チームの力を最大限出せる試合を増やすことによって、サッカーを楽しみたいと思っています。(太田 敏昭)

ヨーガ

【再び渡印】

11月15日より21日までの1週間。またまたインドに行ってきました。その間、かながわクラブのヨーガ教室はお休みさせていただきました。すみません。お陰様で、とても有意義な1週間を過ごすことができました。

今回はバンガロールというところに行ってきました。IT技術の発展がめざましい都市として有名なところ。インドとは思え

ない綺麗な街でした。

空港からバスで1時間半くらいのところにSVYASA ヨーガ大学があります。大学敷地内にある施設に寝泊りしてヨーガ修行をしてきました。

不便なところもあるけれど、(シャワーなし。お湯なし。)自然に囲まれて、とてもゆったりと、そしてどっぷりとヨーガに浸ってきました。本当に幸せな1週間でした。

詳しいお話や写真は、かながわクラブHPのヨーガのページに少しずつアップしていきます。興味のある方は是非チェックしてみてください。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【50歳になりました】

先月50歳になりました。

19歳からクラブでコーチを始め、25歳の時に代表に、39歳の時に理事長になりました。コーチの駆け出しだった当時小2だった教え子たちは、今やクラブのコーチとして大活躍してくれています。しかも一人は現役のTopチームの選手です。

こうやって思い出してみると、結構長いことクラブに関わっていることに気がつきません。

本当にたくさんの方々に支えていただきました。ありがとうございました。

同級生がどんどん50歳になって行くのを見ながら、自分はまだ40代と優越感に浸っていた時期はあっという間に過ぎてしまいました。50という数字にはさして意味はないだろうと思っていたのですが、先日の総合型クラブ交流会で、スポーツ体験をする時に受付で年齢を書く欄がありました。その時初めて、書き込むのに大きな抵抗を覚えました。

かねてより、60歳になるまでには、次の方に道を譲らなければクラブの発展はないと考えてきましたし、その思いは今も変わりません。

そのためには、やらなければならないことがたくさんあります。

後継者探しもその一つです。

バトンタッチするまでの地ならしは、今日も続きます。(内田 佳彦)